

平成十一年度 駒沢短期大学仏教科彙報

*今回は原則として平成十年度を主とする

◇平成十年度 短大仏教科開講科目

基礎仏教学

石井 公成

五蘊、無我、縁起など原始仏教の中心となる教理について考察し、中国や日本における仏教の変容について触れ、道元禅師・瑩山禅師の思想の特質を考察。

坐 禅

角田 泰隆

前半は只管打坐、後半は坐禅に関する両祖の撰述の提唱。今年度は、『正法眼蔵』

「坐禅箴」巻。

宗学研究

角田 泰隆

前期は、曹洞宗の基本的事柄について概説、後期は、両祖（道元禅師・瑩山禅師）の伝記をたどりながら、その基本的な教義について講義。

禅学研究

奥野 光賢

前期は「禅」や「禅定」「禅宗」といった言葉の意味を中心として、主として慧能

にいたるまでの中国禅宗史の概説。後期

は『六祖壇経』を講読しながら、近年の禅

思想に対する批判的研究を紹介して、禅

思想のもつ思想的意味について概説した。

仏典研究 I

木村 誠司

Vāṣṭuputrīya のブドガラ説について、

Tattvasamgraha を中心にして考察した。

仏典研究 II

石井 公成

法顕訳『涅槃経』の講読を中心として、初

期仏教における釈尊觀と漢訳の特質を研

究。

仏典研究 III

袴谷 憲昭

法然の『選択本願念仏集』の講読を通し

て、日本仏教思想史における法然の浄土

思想の特質を研究した。

仏教思想演習

袴谷 憲昭

善導の『観経疏』『散善義』を講読演習す

ることによって、法然や親鸞の源流とも

いふべき善導の浄土思想を考察した。

インド・チベット仏教演習

木村 誠司

ダルマキールティに関する近代の研究を

批判的に扱い、特にプラマーナの定義に

ついて考察した。

中国仏教演習

奥野 光賢

凝然『八宗綱要』『法相宗』の項をテキスト

トとして、法相宗の歴史と教理を演習形

式で概説。

仏教文学演習

石井 公成

『日本霊異記』を中心としつつ、印度・中

国・新羅・日本の仏教説話や漢詩などを講

読。

日用經典概説

奥野 光賢

前期は、仏教教理史を概説しながら經典

の成立や伝播等を講義。後期は、曹洞宗に

おいて日頃誦誦している經典（教典）・語

録等を演習。

中国仏教史

奥野 光賢

中国仏教の形成過程を主として教理に力

点をおいて概説。

日本仏教史

袴谷 憲昭

Intellectual History of Buddhism in

Japanという観点から、日本の仏教思想を
通史的に概観する一方で、法然と明恵
との思想的差異に注目して日本における
その両系統の思考の相違を考察した。

日本禅宗史

角田 泰隆

前期は、インド・中国・日本に及ぶ禅の流
れ、および禅思想の特徴について概説。後
期はこれを踏まえて日本の禅宗の歴
史、特に臨済宗史について講義。

仏教と文化

奥野 光賢

『大智度論』等に見られる「本生譚」の講
読を通じて、それらの物語が意味する仏
教観について考察した。

外国語仏書演習

木村 誠司

Huffard, J&P. L. Swanson(ed.)Prun-
ing the Bodhi Treeを講読した。

仏教伝道

角田 泰隆

前期は、釈尊の伝記を学びながら仏教伝
道の基本的あり方について考え、後期は、
宗門寺院における伝道の具体相、特に葬
祭儀礼について、その意義を概説。

宗学演習

角田 泰隆

前期は、受講者により『弁道話』の前半を
分担して読み進み、後期は、図書館にて教
員の指導に基づいて各自諸資料を参考に

前半を補い、さらに後半を研究して『弁道
話』の研究ノートを完成させた。

インド仏教史

池田 道浩

仏教語解説

池田 道浩

仏教と人間

大西 龍峯

仏典講読

大西 龍峯

禅籍講読

志部 憲一

中国禅宗史

須山 長治

中国古典語

須山 長治

仏教と現代

峰岸 孝哉

宗教哲学

紺野 馨

キリスト教概説

紺野 馨

書道

野村 宙弘

仏教特講Ⅰ

荒井 裕明

仏教特講Ⅱ

三橋 正

◇他学部他学科出講科目

〔大学院〕

修士課程・仏教学特講Ⅱ

石井 公成

敦煌出土の地論宗文献をとりあげ、慧遠
など従来知られていた地論宗の教学や、

天台宗・華嚴宗・禅宗などとの関係を明
らかにしつつ講読。

〔仏教学部〕

日本仏教文化史 袴谷 憲昭

『国体の本義』(文部省、昭和十二年刊)

を基本教材としながら、仏教思想の我が
国における受容のされ方を検討した。即
ち、事実として日本にあった仏教文化が

どのようなものであったかと思えるのでは
なく、仏教の思想がどのように変様して

日本において仏教文化として受容される
ようになったかを考察したものが、本講
義である。

中国古典語初級

石井 公成

文法の基礎を押えつつ、『老子』『荘子』『易』
の要文と注釈を講読。

チベット仏教史

木村 誠司

サムエの宗論やツォンカパの思想を特に、
詳しく考察し、中国や日本の仏教との相
違についても論じた。

チベット語上級

木村 誠司

タルマリンチェン著『量の大備忘録』を講
読した。

仏教特講Ⅳ

奥野 光賢

前期は中国・日本における仏性思想の思
想史的展開を概説。後期は基撰『大乘法苑
義林章』の「諸乘義林第四」を講読。
〔短期大学〕

仏教と人間 (国文科前半) 石井 公成

古代の呪術的信仰が現代人のうちにも生きていくことに注意しつつ、世界の宗教と仏教について概説。

仏教と人間 (国文科後半) 袴谷 憲昭

日本史の知識をまだ失っていないはずの新入生を念頭におきながら、特に日本という場における仏教の展開を中心に、仏教と人間のかかわりについて講義した。

更にその中心は、古代末から中世にかけての全く異質な二つの思潮を究明することに置かれた。しかも、その二思潮を代表する、法然と、その法然を批判した明恵との比較が一年間のテーマであった。

仏教と人間 (英文科前半) 奥野 光賢

松本史朗著『仏教への道』を教科書として、仏教の基本的教義の概説。

仏教と人間 (英文科後半) 木村 誠司

前期は仏教の基本的教義や歴史を概説し、後期は河邑厚徳・林由香里『チベット死者の書―仏典に秘められた死と転生―』をテキストとし、仏教のあり方について考察した。

仏教と人間 (前期・放射線科) 角田 泰隆

仏教の基本的な教義について解説。便宜

的に、「人間」「自己」「現在」「教育」「生死」の五つの言葉を順次取りあげ、これらと関係させながら講義。

◇教員研究活動

石井 公成

〔論文〕

「新出本『十二門論疏』について」(『駒澤短期大学仏教論集』第四号、一九九八・十)
「感応する天―『日本靈異記』の重層信仰」(『駒澤短期大学研究紀要』第二七号、一九九・三)

「仏教学における諸データベースとその連携―XMLの可能性が示すもの―」(『シンポジウム「人文科学における数量的分析(4)」、一九九九年二月」

〔発表〕

「高麗均如の著作に見える地論教学」(第四十九回日本印度学仏教学会学術大会、一九九八年九月五日、於鶴見大学)

「Using XML for Dunhuang Manuscript Database: The Dilun Manuscript Project」(1999 EBTJ, ECAI, SEER & PNC Joint Meeting) 一九九

九年一月十八日、於台湾中央研究院

師茂樹・石井公成「XML版『般若心経』―仏教学におけるマークアップと外字処理―」(第一回XML開発者の日1999、一九九九年三月十三日、於日本経営協会)

袴谷 憲昭

〔論文〕

「本覚思想の「無名」性と論争の重要性」(『仏教タイムス』第一八八四号、一九九九年一月二十八日号)

「Yogācārabhūmiにおける64種の有情分類リストについて」(『駒澤短期大学研究紀要』第二七号、一九九・三)

「悪業払拭の儀式関連経典雑考(IX)」(『駒澤短期大学研究紀要』第二七号、一九九・三)

「念声は一論考」(『駒澤短期大学研究紀要』第二七号、一九九・三)

〔書評〕

「松本史朗著『チベット仏教哲学』」(『駒澤短期大学仏教論集』第四号、一九九八・十)

奥野 光賢

〔論文〕

「涅槃經」に見える「三種病人」の解釈をめぐって」(『駒澤短期大学仏教論集』第四号、一九九八・十)

「吉蔵と草木成仏説」(『印度学仏教学研究』第四七巻第一号、一九九八・十二)

「吉蔵と草木成仏説」(『駒澤短期大学研究紀要』第二七号、一九九八・三)

〔発表〕

「吉蔵と草木成仏説」(第四十九回日本印度学仏教学会学術大会、一九九八年九月五日、於鶴見大学)

「吉蔵における四悉檀義」(第十五回仏教思想学会学術大会、一九九九年六月十八日、於武蔵野女子大学)

木村 誠司

〔論文〕

「チベット仏教における定義」(『駒澤短期大学仏教論集』第四号、一九九八・十)

〔発表〕

「チベットにおける定義の問題―現観莊嚴論」(第四章を中心にして) (第四十六回日本西蔵学会、一九九八年十月十七日、於駒澤大学)

〔出張〕

第四十九回日本印度学仏教学会学術大会、一九九八年九月五・六日、於鶴見大学

角田 泰隆

〔論文〕

「道元禪師と日常生活」(『日本仏教学会年報』第六三号、一九九八・五)

「一生参学の大事」考」(『宗学研究』第四一号、一九九八・三)

「宗学再考」(『駒沢短期大学研究紀要』第二六号、一九九八・三)

〔虚構〕

「道元思想学会 第二回討論会―宗学とは何か―」(『駒沢短期大学仏教論集』第四号、一九九八・十)

〔批判〕

「続 仏教と環境問題」(『駒沢短期大学仏教論集』第四号、一九九八・十)

〔発表〕

「一生参学の大事」考」(第四十四回宗学大会、一九九八年十一月十八日、於駒沢大学)

〔出張〕

第四十九回日本印度学仏教学会学術大会、一九九八年九月五・六日、於鶴見大学

〔講演〕

「曹洞宗と環境問題(一)(二)」(平成十年度駒澤大学秋季公開講座「仏教と環境・共生」、一九九八年十一月・十二月)

◇諸係担当(平成十一年度)

短期大学仏教科主任 石井 公成

○学内諸係

全学教授会委員 石井 公成

自己点検・評価実施委員 石井 公成

体育審議会委員 木村 誠司

図書館委員 角田 泰隆

図書館選定委員 角田 泰隆

紀要編集委員 角田 泰隆

宗教教育運営委員 奥野 光賢

駒澤大学百周年記念奨学生選考委員

角田 泰隆

駒澤大学情報基盤整備検討委員会委員

石井 公成

総合情報システム委員会委員 石井 公成

○学科内諸係

自己点検・評価実施委員 専任教員全員

論集編集委員 角田 泰隆

会計・庶務 奥野 光賢

【公開講演会】

一九九八年十一月十一日午後六時

演題 「仏とは何か」

講師 東京大学助教授 下田正弘先生

◇研究テーマ提出者(平成十一年度)

仏教科一年

番澤 俊裕 「『普勸坐禅儀』の一考察」

織茂 望 「達摩と達磨とダルマ」

工藤 文恵 「『勝鬘経』の研究」

井田 隆徳 「曹洞宗の教義と法式作法」

大紫磨寿紀 「道元禅師と栄西の教えの相違」

内山 琢磨 「現代日本における仏教の意義」

榎本 智光 「初期日本曹洞宗における発展
と思想」

三田 正芳 「『正法眼蔵随聞記』における道
元の人間像」

長岡 裕之 「禅の生き方―禅語の研究を中
心として―」

植村 公彦 「『般若心経』の解釈研究」

小貫 良子 「世界の宗教における女性観」

馬場 俊行 「曹洞宗の思想と坐禅の作法」

浅井 功純 「仏教とは何か」

笠神 英章 「現代におけるカースト制」

進藤 紀夫 「昭和の戦前・戦中・戦後期の民
間仏教信仰」

永石 龍光 「輪廻説の研究」

清水 和美 「信仰にみる浄土門聖道門」

橋本 修 「現代僧侶の役割」

横川 善一 「道元禅師と現代―『正法眼蔵随
聞記』に学ぶ―」

山根 孝徳 「現代社会と仏教」

関根 良信 「仏教における輪廻説」

加勢 亮学 「禅定」に関する研究」

門屋かをる 「宗教儀礼における太鼓の役割」

長谷川覚仙 「『参同契』と『宝鏡三昧』につ
いて」

高橋 淳二 「道元禅師の思想と現代仏教」

武長 一俊 「現代社会における仏教伝道」

宮坂宗一郎 「日本仏教に影響を与えた思想・
信仰」

福垣 秀邦 「仏教における煩惱の研究」

松野美音子 「『典座教訓』の研究」

林 正堅 「仏教と人権―曹洞宗における
差別の歴史について―」

清水 由美 「欧米におけるインテリアとし
てのZENスタイル」

宮崎 良孝 「道元禅師の父親は誰か」

荒川 秀美 「道元禅師の『般若心経』解釈―
『正法眼蔵』『摩訶般若波羅蜜』巻によつ
て―」

喜谷 良順 「現代日本における仏教の問題」

福原 孝英 「道元禅師の坐禅について」

仏教科二年

岩井 隆征 「瑩山禅師の研究」

菊池 宗之 「一休の研究」

渡辺 信行 「『歎異抄』の一考察」

森 孝基 「宗門人にとっての差別問題」

川島 岳人 「日本曹洞宗の研究」

大谷 悟祐 「禅と東洋医学」

寒河江 洋 「『中論』第二四章「観四諦品」
の研究」

村田 隼一 「曹洞宗と黄檗宗」

小林 芳文 「地蔵信仰について」

水町 尊典 「道元禅師の研究」

佐藤 英記 「道元禅師の生涯について」

古田 孝二 「仏教と戦争責任」

大橋 申候 「禅の諸相」

小松 勝治 「曹洞宗に於ける食事作法と茶
事に於ける食事作法について」

宮 徹 「大乘仏教と小乗仏教」

小森 文恵 「方便思想の問題点」

奥山 孝治 「仏教における食習慣について」

榊屋陽一郎 「仏教の現代的意義について」

佐藤 良行 「鎌倉新仏教の思想的意義」

浅野 良道 「十二巻本『正法眼蔵』「三時業」

卷の一考察

渡辺 祐宏 「仏教と日本古来信仰との考察」

佐藤 允英 「仏教における死後の世界について」

西垣

宏紀 「曹洞宗の歴史的研究」

安野 重貴 「原始仏教と現代仏教」

川村 怜爾 「吉蔵における浄土思想」

田中詠一朗 「拈華微笑」と「以心伝心」

—その批判的一考察—

大宮 斎士 「『選択本願念仏集』の一考察」

村市菜穂子 「日本仏教十三宗の研究——曹洞宗を中心として——」

中野 寛秀 「仏教と諸宗教との比較的研究」

本田 桂子 「現代における仏教の役割」

鈴木 祖三 「現代日本人における「死」の

とらえ方

菊池 裕紀 「曹洞宗の成立史的研究」

坂上 興道 「修証義について」

勇 泰代 「地蔵経の研究」

大久保真由揮 「釈尊の十大弟子」

菊池 光彦 「仏教と社会福祉——老齡化社

会における仏教の役割——

清藤 久嗣 「道元禅師の自然観」

丸島 和親 「現代日本人における仏教の必

要性」

前原 昭彦 「北魏太武帝の廃仏について」

木村 忠行 「道元禅師の研究」

市川 真大 「曹洞宗における食事作法」

◇平成十一年度短大仏教科在学生

仏教科一年

森 充

織茂 望

井田 隆徳

大紫磨寿紀

内山 琢磨

三田 正芳

長岡 裕之

小貫 良子

馬場 俊行

笠神 英章

永石 龍光

橋本 修

林 俊英

番澤 俊裕

工藤 文恵

宇梶 正幹

木村 英一

榎本 智光

黒田 雪雄

植村 公彦

藤ノ木浩太

浅井 功純

進藤 紀夫

清水 和美

横川 善一

山根 孝徳

加勢 亮学

長谷川覚仙

武長 一俊

高田 祥哉

松野美音子

林 正堅

佐藤 裕史

清水 由美

荒川 秀美

喜谷 良順

飯村光一郎

手嶋 光胤

安齋 朋和

門屋かをる

高橋 淳二

宮坂宗一郎

福垣 秀邦

藤江 雅之

小林 芳隆

嵩 佑悦

宮崎 良孝

通正 仁寿

鈴木 孝幸

鷹林 浩道

福原 孝英

仏教科二年

岩井 隆征

渡邊 信行

川島 岳人

阿部 竜平

村田 隼一

水町 尊典

古田 孝二

大橋 申候

小松 勝治

菊池 宗之

森 孝基

大谷 悟祐

寒河江 洋

小林 芳文

佐藤 英記

寺本 昭宏

野口 博明

中堀 俊明

宮 徹

富田	小椋	伊藤	渡邊	中井	木村	山岸	三野	清藤	星野	勇	菊池	海野	中野	石田	石田	田中詠	河村	西垣	角田	淺野	小野	奥山	小森
泰俊	周	太祐	正規	啓香	忠行	一仁	修史	久嗣	正親	泰代	裕紀	朋孝	寛秀	靖大	顕周	一朗	康仁	宏紀	賢一	良道	大龍	孝治	文惠
岡田	西川	金子	小林	市川	鈴木	前原	畠山	丸島	菊池	大久保嘉由揮	坂上	鈴木	本田	村市菜穂子	大宮	鈴木	川村	安野	佐藤	渡辺	佐藤	柘屋陽一郎	石崎
敬章	英範	宗憲	一成	真大	信亮	昭彦	拓磨	和親	光彦		興道	祖三	桂子		斎士	浩吏	怜爾	重貴	允英	祐宏	良行		憲昭